

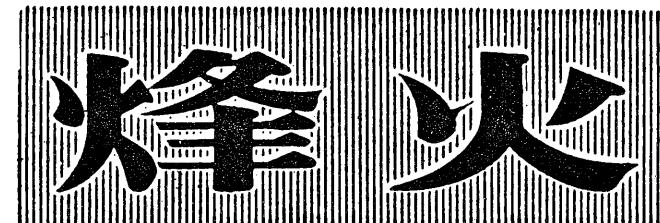
ニカラグア革命から11年

…P2~4

- ◆運動90を支持するメッセージ …P7~8
- ◆NAW結成から一年を迎えて …P10~11
- ◆古典学習⑩カール・マルクス ……P12

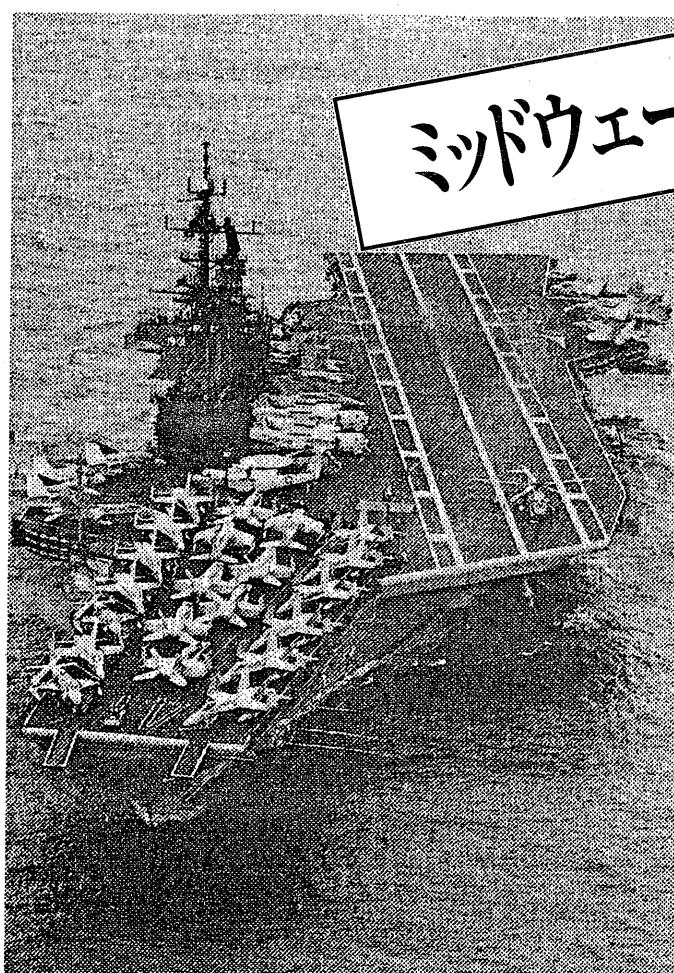
今号の内容

1990年  
7月1日  
第420号  
編集発行人 高木一夫  
一部 200円



## 共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19  
明豊ビル401号 大労協内  
TEL.(06)371-3706  
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫  
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫



事故のあと横須賀にむかうミッドウェー(6月20日)

## 運動90の成功を

ミッドウェーの爆発・火災事故、そして米軍と自民党政権の真相隠しに対しても起きる人民の怒りを、日米安保・日米軍事同盟に対するたたかいへ発展させよう。日米安保に対するたたかいを、アジア・第三世界の革命運動に対する国際連帯闘争と結びつけよう。ことしの夏、関西の戦闘的労働組合を中心にして開始された「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・たたかひ」を成功させ、反安保・国際連帯闘争のいっそうの前進をかちとろう。

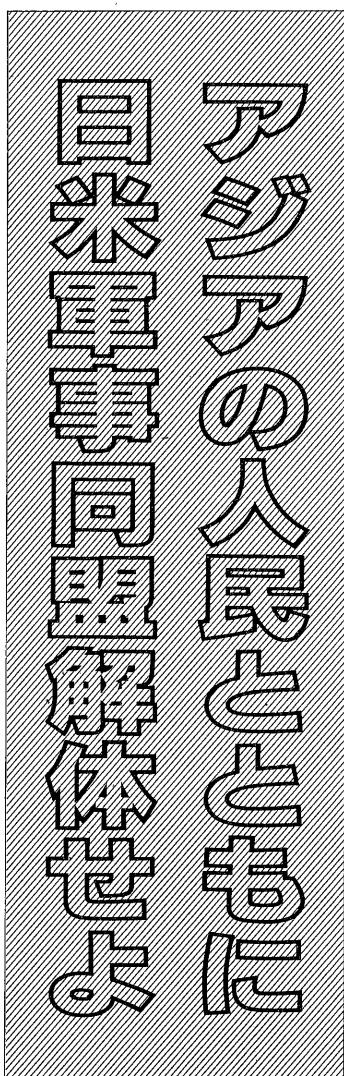
# 爆発火災事故許すな

横須賀を事実上の母港とする米空母「ミッドウェー」(五万一千人)が六月二〇日、千葉沖の海上で訓練中に死者一人をだす大規模な爆発・火災事故を起こした。当日ミッドウェーは、三陸沖で予定されていた日米共同軍事演習に参加するために航行中であった。米第七艦隊の主力空母であるミッドウェーは核を搭載する艦船であり、今回の事故が核兵器の破損をともなう、より重大な事故に発展していく可能性は十分にあった。

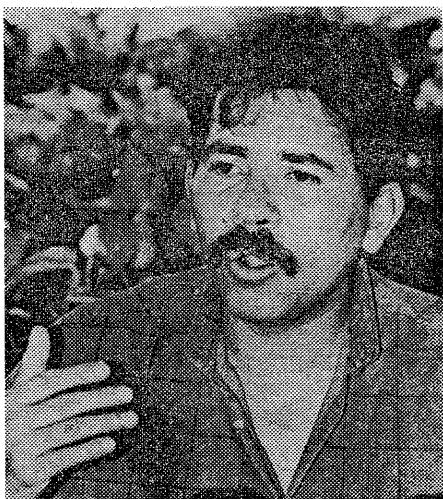
米側は、今回の爆発・火災事故の真相を明らかにすることを拒否した。

そして翌二一日には、横須賀市民を中心とする広範な人民の反対の声を無視して横須賀港への帰港を強行した。日本政府はこのような米軍の態度に追随し、事故の真相隠蔽に加担した。

日米安保と日米軍事同盟が存在するかぎり、今回のような事故が再発し、わが国の労働者人民の生活と生命をおびやかし続けることは避けられない。それは、たとえば米軍基地が集中する沖縄の現実に典型的に示されている。住民の居住区のすぐそばで軍事演習が頻繁におこなわれている沖縄では、演習などによる住民被害の事故が相次いで発生している。同時にわれわれがみておかなければならないのは、「冷戦の終結」といわれる時代のなかで、日米安保がその矛先をソ連からアジア・第三世界にますますはっきりと向け始め、アジア・第三世界の革命運動に対する侵略反革命同盟としての性格を強めているという事実である。日本の労働者人民の生活をおびやかす日米安保と日米軍事同盟が、アジア・第三世界の人民を支配し、彼らのたたかいを圧殺するためにますます強化されているのである。そしてわが日本帝国主義は「アジアの盟主」としての登場をかけて、この日米軍事同盟の中軸を担おうとしているのである。



# 闘いに立つFSLNに 運動を組織せよ



▼チャモロを批判するオルテガ(5月11日)  
▼FSLN系公務員によるスト(5月12日)

## 選挙後のニカラグア

ニカラグア総選挙は、本来は一月に行われる予定を、中米五カ国和平合意（八九年一月）にもとづいて二月にくり上げて実施された。FSLNは選挙のくり上げに応じるかわりにコントラの解体を他の中米諸国に確認させ、内戦終結による国内経済の再建をばかり、また選挙での勝利を通じてニカラグア革命の正当性を国内外に刻印しようとした。だが選挙はFSLNのもぐろみとは裏腹に、米帝と国内ブルジョアジーやコントラの支援を受けたチャモロの勝利に結果した。

米帝の支援を受けたチャモロは、「FSLNが勝てば米帝の介入の口実がなくなる」と平和な時代がきて、すべては良くなる」と訴えた。これに対してUNOは、「憲法の改正」「対外貿易を国家の管理から除外する」「外国からの新規投資の促進」「徴兵制の廃止」などを掲げ、「事態を変えよう」と訴えた。

大統領選に勝利したチャモロは、「UNOの勝利は飢えにノーザン労働者、徴兵制にノーニー」と語り、疲弊したニカラグア人民の窮屈からの脱却の要求に応えたから選挙で勝利できたのだと主張した。たしかに長期にわたる米帝のニカラグア革命の破壊策動とコントラとの内戦の中で、FSLNからの人民の一定の離反とチャモロへの支持が生まれたことはまちがいない。

しかし一方で見ておかなければならないのは、FSLNは四〇%以上の強固な支持をこの選挙で獲得した点である。UNOは、コントラ、国内ブルジョアジーから「左翼反対派」の共産党まで一四党派が反FSLNの一点で結びついた野合勢力であり、UNOに比べればFSLNの支持基盤は依然強固なものであることがはっきりした。

### チャモロ政権と闘うFSLN

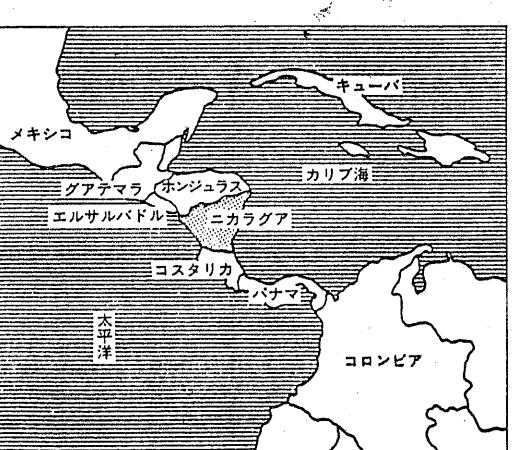
選挙後FSLNは、チャモロ政権の登場によって労働者・農民の権利が奪われないようにするための法律・政令づくりや、コントラとの内戦を終結させるための交渉に着手した。そして新政権登場を前にした四月一九日、FSLN政権とコントラの間で、コントラは六月一〇日までに武装解除し、組織を解体するという合意が行われた。

この合意をうけて四月二十五日、大統領に就任したチャモロは、①国軍の縮小②徴兵制の停止③現在徴兵されている兵士の服役期間短縮④恩赦の実施を約束し、「銃を溶かし、それを生産に回して國土を建て直そう」と訴えた。これらによってコントラの解体、内戦の終結は確実かと思われた。だがチャモロ大統領によるウンベルト・オルテガ前国防相の人民軍最高幹部への

ニカラグアは、七九年七月十九日の革命から一一年目を迎えるとしている。革命一年を迎えるニカラグアの状況は、昨年とはまったく異なっている。それは本年二月に行われた大統領選挙の結果を受けて、この四月からビオレッタ・チャモロが大統領になっている点である。チャモロ政権は、米帝と国内ブルジョアジーに支えられて登場した政権であり、それは必然的に革命の成果をほりくずし、ニカラグア人民を再び國際帝国主義の支配のもとへとおいやつしていくだろう。

チャモロ政権に対して野党になったFSLN（サンディニスタ民族解放戦線）は、革命の成果を防衛し、労働者・農民の権利を防衛し、六年後の大統領選挙にむけた新たなたかいを組織している。全世界のプロレタリアート人民は、いまこそFSLNとニカラグア人民に国际的支援と援助を集中しなければならない。

## 革命から11年目を迎えるニカラグア



米帝リブッシュは選挙の結果を受けて、「ニカラグアの平和的な国民和解と経済再建が成功することを希望する」との声明をだし、経済制裁の解除と新政権への三億ドル緊急援助をうちだした。そのうえで財政赤字に苦しむ米帝は、

国際帝による反革命介入弾劾  
チャモロの当選が決まってから、米帝は本格的なニカラグア革命の解体と新植民地主義支配に乗りだしている。国際帝国主義はチャモロ政権に対する経済的・政治的支援を行い、これを通じた「経済再建」にニカラグア人民の支持をとりつけ、FSLNの支持基盤を掘り崩そうとしたくらんでいる。

起用は、UNOの内部対立を表面化させ、コントラを地方警察に加えるという新たな合意が成立することによって、コントラ解体作業は再開された。とはいってもFSLN強硬派の存在は、内戦の再発とそれを口実とした米帝の軍事介入の危険性として残っている。

また五月に入つてチャモロ政権は、FSLNが作った法律・政令の「全面的見直し」を発表した。FSLNはこれを「革命の成果を台なしにし、旧ソモサ独裁体制の事実上の復活をはかるものだ」と批判し、FSLN系の国公労総連合は既得権の保持と賃上げを求めるストライキに入った。野党になつたFSLNは、チャモロ政権に対するたたかいを開始している。

## 敗北をのりこえ新たな階級的な連帯

七九年のニカラグア革命は、米帝の新植民地支配とソモサ独裁を打倒した。このニカラグア

革命の意義は、中南米を「裏庭」とする米帝の新植民地支配の一角を打破したにとどまらない。革命前のニカラグアと同じように国際帝国主義とブルジョアジー・大地主に支配されている中南米諸国の人々に、ニカラグア革命は限りない勇気と希望、そして解放への針路を与えてくれた。

だからこそ米帝をはじめとした国際帝国主義は、ニカラグア革命の破壊に血眼になってきた。今回、選舉に敗北したとはいえ、この一〇年間、FSLNは、国際帝国主義と国内ブルジョアジーとのたたかいに勝利してきた。このたたかいの歴史を振り返つてみるとFSLNがぶつかった問題をより深くとらえていきたい。

### 反ソモサ資本家との連合政権

七九年のニカラグア革命は、ソモサが残した一六億ドルの対外債務を引き継がなければならなかつた。この債務総額は七九年の国内総生産に匹敵する巨なものであつた。FSLNにとって、債務の支払いを延期し、内戦の荒廃から再建するために新たな借款を得ることは死活の問題だった。国際帝国主義は、それを承認することとひきかえに革命の前進を抑止するための政治的圧力を加えてきた。

革命当初FSLNは、反ソモサ派ブルジョアジーと連合して国家再建政府協議会を樹立した。この政府の中には、ビオレックタ・チャモロやアルフォンソ・ロベロなどの反ソモサ派ブルジョアジーも参加していた。政府は、ソモサ支配体制への復帰をはかる政党以外の一切の政党の結成と活動を認めるとともに、ソモサ系企業八〇社やソモサらの土地・資産を没収し、主要農産物輸出の国有化、銀行・保険会社の国有化を行つた。これらはソモサの支配下で一定の抑圧を受けた。反ソモサ派ブルジョアジーにとっても有益だった。もちろんこの時には、ニカラグア経済に影響力を持つ反ソモサ派ブルジョアジーの生産手段には手はつけられていない。

「混合経済」などの政策は、このように国際・

チャモロ政権への経済援助を他の帝国主義、とりわけ日帝に對して強く要求している。三月三日から行われた日米首脳会談では、「グローバル・パートナーシップ（世界的規模の協力関係）」の強化が日米間で確認されるとともに、米帝の要請を受けて日帝＝海部は、「ニカラグアの民主的政府支援のために早急に具体的協力を実施したい」と表明した。

全世界のプロレタリアート人民は、このよう

## 革命防衛した10年間

な国際帝国主義の反革命介入による革命解体攻撃を断じて許してはならない。FSLNの新し

いたたかいへの断固とした国際的支援に立ちあがつていかなければならぬ。わが日本プロレタリアート人民が自國帝国主義のニカラグアに対する反革命援助を阻止し、FSLNへの支援・連帯のたたかいに立ちあがることは、プロレタリア国際主義にもとづく義務である。

### 米帝＝レーガンの反革命介入

八年に登場したレーガン政権は、FSLN政権を敵視し、コントラを「自由の戦士」として軍事・経済援助を続けたほか、経済封鎖や直接軍事侵攻を狙つた米軍演習など、FSLN政権を力によって転覆しようとあらゆる手を使つてきた。

コントラに対する援助は、米議会で承認された額だけで八四年度二四〇〇万ドル、八五年度二七〇〇万ドル、八六年度一億ドル、八八年度四八〇〇万ドル、八九年度六六〇万ドルである。このような公然とした援助の開始以前からCIAは自らの予算をコントラに注ぎ込んでいた。また八五年から八六年にかけて米議会が軍事援助を禁止していた期間にも、イラン・コントラゲート事件という形で明らかになつたように、コントラへの援助が秘密裏に行われていた。

米帝は、八一年以来、大小合わせて二三五回上もの米軍演習・合同演習をニカラグアの隣国ホンジュラスで行つている。米帝は八三年一〇月、カリブ海の小国グレナダの革命政権を軍事介入によって葬り去つたように、ニカラグアへの軍事侵攻を狙つていたのである。ニカラグアはひんばんな軍事演習によつて米帝の軍事侵攻の危険にさらされ続けていたのである。

米帝は、経済的にも圧力を加え続けた。米帝は、自國の対ニカラグア援助をカットするのはもちろんのこと、世界各国の政府・金融機関の対ニカラグア援助にも圧力を加えた。そして米帝は、八五年五月にはニカラグアに対する全面禁輸の措置をとつた。ニカラグアの輸出の一〇%、輸入の一九%を米帝が占めており、ニカラグア経済はこれによつて潰滅的な打撃を受けた。

これら一切の米帝の軍事的・経済的介入は、

FSLN政権の打倒をめざして行われたのである。



武装解除を開始したコントラ(5月8日)

### 中米諸国による和平の動き

米帝によるニカラグア軍事侵攻の危機が強まる中で、中南米諸国による中米和平の動きが八年から始まつた。これは中南米諸国の支配者が、米帝のニカラグア軍事侵攻によってニカラグア革命に共感する自国の人民の階級闘争が激化することを恐れたこと、そして累積債務問題にみられる米帝をはじめとした帝国主義の過酷な搾取に苦しむ中南米人民の反米感情の高まりを背景としたものであった。

コントラ・グループ（メキシコ、パナマ、コロンビア、ベネズエラ）が八四年九月提起した和平提案は、外国軍事顧問団の撤退、軍備制限などを条件として戦争終結に導こうとするものであったが、これは何よりも米帝がコントラへの援助を続けることによって頓挫した。米帝は、中南米諸国によるこうした和平の動きに妨害を加えてきた。

しかし中南米諸国の和平の動きは続けられていった。そして八七八年八月、ニカラグアをはじめとした当事者国である中米五カ国（ニカラグア、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、コスタリカ）による和平合意が行われた。ニカラグアでは、長期にわたる内戦によって国内経済が疲弊し、戦火と荒廃からの脱却を求める人民の声が日増しに強くなつていた。ここからFSLN政権は、内戦を終結させることが必要になつたのである。

FSLN政権は、米帝の中米和平への介入とたたかいながら、戦争の完全な終結をめざして努力を続けた。そして八九年二月の中米五カ国首脳会議において、コントラの解体と大統領選挙のくり上げ実施を合意した。さらに八月の中米五カ国首脳会議の合意でコントラの解体はより決定的なものとなつた。FSLNは、この中和平合意にもとづく政策を実行した。

にもかかわらず米帝＝ブッシュ政権は中米和

平合意を無視し、コントラへの援助を決定し、ホンジュラス政府にはコントラが国内にどどまれるよう要求するなど、力による介入をおし進めた。

### 階級を組織し続けたFSLN

七九年の革命後、FSLNは階級的な大衆諸団体を組織し、引き続く階級闘争に人民を全力で立ちあがらせてきた。サンディニスタ労働センターを結成し、これを軸に全国で労働組合を結成、プロレタリアートを組織していくとともに、コントラと米帝の軍事侵攻に備えてサンディニスター人民軍を軸に民兵制度の強化と徵兵制の

FSLNは総選挙で敗れたとはいえニカラグアではいぜん最大の政党であり、労働者・貧農人民の革命的前衛党である。FSLNは反帝民族解放－社会主義革命の道を堅持し、新しい条件でのたかいを開始しようとしている。ニカラグア革命をいつたんの後退に追い込んだ主な原因是、まぎれもなく米帝と米帝のLINC戦略にはかない。米帝のLINC戦略にもとづく一〇年にもおよぶ反革命介入が内戦を泥沼化し、ニカラグアの荒廃をもたらし、FSLNへの人民の支持を切り崩したのである。

またニカラグア革命を孤立させ、国際帝国主義によるLINC戦略の展開を容易にしたのはソ・中の一国社会主義路線という反プロレタリア国際主義であった。今日の国際共産主義運動を支配するソ連共産党をはじめとする一国社会主義路線の果たしている役割は犯罪的である。ソ連はニカラグアに一定の援助を行つてきただが、それはソ連一国の国家的利害からみて中米における反米政権の存在が彼らにとって有益であったからにすぎない。したがつてソ連の国家的利益にならないならばいつでも革命を平氣で見殺しにするのである。現にゴルバチョフの進めるペレストロイカのもとでFSLN革命政権をはじめとした第三世界の反帝民族解放－社会主義革命闘争への援助は削減・放棄されている。

ニカラグア革命にみられるように第三世界の反帝民族解放闘争は、国際帝国主義の反革命介入と国内ブルジョアジーの激しい抵抗という巨大きな困難に不可避に直面する。この困難を打破するために全世界のプロレタリアート人民には次のこと�이求められている。

第一には、国際帝国主義による第三世界の反帝民族解放闘争への反革命介入に対するたたかいを組織することである。とくに帝國主義本国でのたたかいを組織することは、国際帝国主義のLINC戦略を足元から弱めるうえで特別に重要なことである。とりわけ日帝が第三世界への新植民地主義支配を強め、革命闘争への反革命介入を

導入による全人民の武装を進めた。このような階級の組織化と階級組織の建設こそ、極限的な物資不足の中で、コントラとの内戦の遂行を可能にし、一〇年にわたって革命政権を防衛し、強固な人民の支持を獲得することを可能にしてきた最大の根拠であった。

七八年の革命九周年記念演説でオルテガ大統領（当時）が「一九七九年七月一九日以来、ニカラグアには社会主義が存在している」と宣言し、その発展を全人民に呼びかけたことに示されているように、FSLNはさまざまな困難に屈することなく勝利した革命を共産主義革命へと発展させるべく勇敢にたたかっていた。

## 連帶闘争の再建を！

FSLNは、七九年の革命以降、国際帝国主義と国内ブルジョアジーとたたかいながら、社会主義にむけた階級闘争に人民を立ちあがらせてきた。その実践は、労農人民の革命的な英雄主義・献身性を最大限に發揮させ続けてきた特筆すべき実践であり、ソ連などの一国社会主義路線との根本的な分岐を内包するものであった。中米の小国ニカラグアでのFSLNのたたかいは、質的には世界党（インターナショナル）の建設を要請しているのである。ニカラグア革命連帶闘争は、世界党再建という歴史的事業と結合させられなければならない。

これまで見てきたようにFSLNとニカラグア革命運動はいまなお強固な人民の支持に支えられており、総選挙に敗北したからといってニカラグアの反帝民族解放－社会主義革命が破産し、崩壊したのでは決してない。全世界のプロレタリアート人民はニカラグア事態の教訓をがものとし、新たな条件のもとでたたかいを開始したFSLNとニカラグア人民に連帯し、プロレタリア国際主義を国際階級闘争の最前线に復権するために全力をつくさねばならない。FSLNとニカラグア人民のたたかいを国際帝国主義の反革命介入によって挫折させてはならない。共にたたかわん。

基地の島に国際連帯組織

6・22

# 沖縄—フィリピン をつなぐ会が発足

六月二二日、沖縄において労働者の国際連帯を掲げた「沖縄—フィリピンを繋ぐ会」が結成された。翌日の二三日が沖縄戦終結の日であり、海部首相が沖縄に乗り込んでおこなわれる官製慰靈祭の対極に、労働組合などが中心となって各地で反戦運動の取り組みを展開する中での結成集会であった。

集会では、最初に「繋ぐ会」代表より結成に至る経過が報告された。「沖縄とフィリピン、アジアとは歴史的関係が深い。しかし現状は、沖縄基地がフィリピンの労働者人民

のたたかいと対立するものとしてあ

るという負の関係にある。また日本の『繁栄』が第三世界人民からの収

奪の上にあり、その中に自分たちの生活があるという関係にある。アジア人民との連帯は極めて重要である。

日本帝国主義がアジアの抑圧者としてある現状を、アジアの労働者人民とともに突き破っていこう。沖縄とアジアの連帯を自らの手で切り開いていこう」と「繋ぐ会」の結成に至る問題意識が述べられた。続いて、「繋ぐ会」の趣旨と会則が提起され、決議された。またこの結成集会には、

アジア労働者情報交流センター・関西からの連帯メッセージが寄せられた。

この第一部のあと、記念講演として、BAYAN（新民族同盟）とCLASP（独立フィリピンのための中部ルソン同盟）を代表して来日したマリオ・ペレス氏よりフィリピン情勢の報告がなされた。マリオ氏は、フィリピンの労働者人民のかかえている矛盾とたたかいについて紹介し、日本帝国主義がはたしている犯罪的位置を集会参加者に訴えた。マリオ氏は発言の最後に、「『繋ぐ会』の

活動の成功がフィリピン人民にとって大きな励ましとなることを知つてほしい。

日本が再びアジア侵略をしようとする 것을阻止することになるのだ」と激励と期待の表明で発言をしめくった。

この「繋ぐ会」の結成は、小さな勢力とはいえ、国際主義に立脚する運動が沖縄において本格的に開始されたという意義を持つものである。この運動を堅固として支持し、大きなねりへと発展させていかなくてはならない。



## 第四回 大会への結集を

全国労働者政治委員会

私たち、全国労働者政治委員会

は、前回大会から三年半にわたつた劳政第三期の全成果のうえに劳政第四回大会を開催します。

国際的にはソ連・東欧の社会主義のなだれうた崩壊のなかで、「社会主義はもう終わりだ」というブルジョア階級のキャンペーンが世界中を駆け巡りました。

他方、国内的には、アジアの支配的帝国主義として「成長」していく日本帝国主義のもとで、日本人民はますます第三世界人民と対立させられ、帝国主義本国特有の排外主義のもとで再軍備・再侵略の道に組織されていこうとしています。

このような時代の中にあって、今日もなお帝国主義の非人間的搾取によって痛めつけられ続けている第三世界人民からは、フィリピン革命を先頭に、共産主義革命に向かうことによってしか解放されない人民たちが日本人民の決起を

呼びかけています。「われわれも

命がけでたたかうから、あなたたちは必ず日帝を打倒せよ」と。

昨年一月の「連合」の正式発足と、それともなう排外主義的な労働運動の完成化は、日本の労働運動に一旦の敗北をよぎなくさせました。この構造は私たちに今まで以上に、ありとあらゆる場所で、自立的に、ゼロから、そして一人であってもプロレタリア国際主義と日帝への正面戦に人民を組織していくことを強く要請していると言えます。

第四回全国労政大会は、国内外にわたる時代の巨大な変化と重なり、労政活動の大きく深い転換期をなしています。このような国内外の階級的要請に応えるべく、労政の組織的・政治的飛躍をかけた大会にしていきましたと考へています。多くのたたかう仲間が結集されることを呼びかけます。

いくつかの階級的労働組合よって呼びかけられていた「ふたたび日本人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・90」の実行委員会が結成された。この実行委員会は、自立労働組合連合、洛南労働組合連絡会議、全日建運輸連帶労働組合・関西生コン支部などを中心に学生団体や、諸運動団体・個人で形成されている。この運動にはフィリピンのBAYAN、KADENA、CLASP、KMU、台湾労働者人権協会などが賛同している。BAYANやKADENA代表が来日し、わが国の労働者・学生との広

いともない、日帝のアジア・第三世界に対する支配力が強まっている。「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・90」が六月から八月にかけて、アジア人民との国際主義的な連帯をめざしておこなわれている。

## 運動・90実行委が発足



米軍基地撤去を求めるフィリピンの人民

八九年の日本のODA（政府開発援助）は八十九億五千八百万ドルとなり、米帝をぬき、世界第一位の援助国となつた。援助額の増大とともに、日帝のアジア・第三世界に対する支配力が強まっている。「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・90」が六月から八月にかけて、アジア人民との国際主義的な連帯をめざしておこなわれている。

# アジア第二世界人民と連帯し日帝の海外侵略を阻止しよう

われわれは、この運動を全力で支持する。現在フィリピンでは、在比米軍基地撤去にむけた九一年基地協定の期限切れを前に、激しい全人民

的闘争がくりひろげられている。これに連帯しうる日本労働者階級人民の政治闘争の前進をかち取つてこう。

## 京労実が国際連帯集会開催

京都の左派労働者で構成している京都労働者実行委員会が6月15日、市内で「京労実活動家討論集会」を開催した。

集会は「再びアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・90」キャンペーンの一環として企画され、六月二十八日の京都労働者集会への労働者の組織化に向けた活動家學習討論会として開催されたもので、自立労働組合連合、全金規模別共闘、全日建運輸連帶労組・関西生コン支部、市役所連絡会議等の活動家四五名が集った。

冒頭、「フィリピンのたたかいの現状」をレポートしたビデオが上映された後、在日韓国青年同盟京都本部の代表、フィリピンBAYAN（新民族主義者同盟）代表が報告と問題提起をおこなった。

在日韓国青年同盟の代表は「九〇年代の日韓関係は、盧泰愚大統領の来日、日韓首脳会談で新しいスタートをきったが、これは日米韓のアジア太平洋への共同反革命体制を策動するものであり、しかも、それは從来の対ソ、对中国戦略から転換し、

アジア第三世界人民の民族解放、民主化のたたかいに矛先が向けられていることに注目すべきである。日韓連帯運動、韓国労働運動も新たな国際主義の内実を形成して九〇年代の攻撃に対してたたかっていく必要がある」と強調した。

京都労働者実行委員会は、六・一五、六・二八集会を通して新しい時代の労働者政治運動を実際的な国際主義に立脚して再組織化することを目指しており、本集会は九〇年代労働運動にとって、アジア人民との直接的な連帯、团结が不可欠であることを確認した意味において、画期的な取り組みであった。

## 資料

ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動・  
90に寄せられた海外からのメッセージ

### BAYAN

#### 民族主義者同盟

アメリカ合衆国が主導する太平洋での軍事演習に反対するあなたがたのキャンペーンは、日本とアジア全域における真の平和の実現に貢献しています。そして、平和に関する緊急の諸問題を抱えている私たちフィリピン人に対して、力と励ましたとを与えてくれるものです。

アメリカ合衆国とフィリピンの軍事基地協定は一九九一年九月一六日に失効します。このため、私たちは、フィリピン民衆が市民として果たすべき役割に目覚め、米軍基地を一九九一年までに撤去し、基地存続にむけた新たな条約を締結させないようにするためのキャンペーンを強化しているところです。

フィリピンから米軍基地が撤去されるならば、フィリピン民衆は、独立・非同盟・平和的外交政策を開拓することができるようになります。そして、それは、外国の軍事力や核兵器のないアジア太平洋地域での平和の実現にむけて、大きく貢献するでしょう。

私たちは、主権と民主主義的諸権利を守るために献身する自覚めた市民こそが、国を守るのだと主張しつづけてきました。同じような気持ちを持つ諸国の民衆が、それぞれの国の幸福と平和を促進するために共に行動する時、私たちは全ての地域における真の平和と安定を実現するための条件を作りだすことができるでしょう。しかし、自由・平和・幸福という民衆の熱望の前には、非常に困難な障害が立ちはだかっています。わが国政府の政策立案者たちは、企業の指図を受けて、フィリピンと日本の大衆の幸福や利害とは全く対立しています。彼らは、アメリカ独占資本の帝国主義的な利益に協力しているのです。そして、その独占資本は、何さておいても、わが国やアジア太平洋地域に存在する米軍基地と核兵器の絶えざる脅威を利用して、利益を享受しているのです。

莫大な貿易赤字と予算不足からくる負担によって、アメリカ合衆国は日本政府に対して、米軍基地存続のための責任分担を一層強力に要請しています。フィリピン援助計画(PAP)を通じて、アメリカ合衆国は基地存続のための費用の大半を日本のODAで賄うよう、財政的な援助協力を望んでいるのです。

第一に、中東から日本へいたる石油輸送路と

シーレーンの防衛に、米軍基地が役立っているとアメリカ合衆国は強く主張しています。フィリピンのような第三世界諸国の経済に対しても、日本の大企業は死活的な利害を有していますが、米軍基地の見返り金は、米日によるフィリピン経済からの略奪と環境破壊に抵抗するフィリピン人を殺すための爆弾と弾丸に化けるのです。

こういうわけで、アメリカ合衆国は、一九九一年以降もクラーク空軍基地とスエービック海軍基地を維持していくために、日本に最大限の援助を要請しつづけるでしょう。

こうした独占企業の利益への協力を具体的に示しているのが、カビテ州(南部ルソン)ダスマリナスにおいて、何百ヘクタールもの最良の農地を工業用地にするための許可を丸紅に与えた最近のフィリピン政府の決定です。そもそもこの土地は、農地改革法によって貧農に分配されることになっていたのです。貧農たちの絶えざる抗議の声にもかかわらず、日本およびフィリピンの大企業に協力するアキノ政権は、これらの最良の土地を工業用地に転用する決定を下しました。そして、ここで大企業は膨大な利益を得て、安価な労働力を最大限に利用しようとしているのです。

第二に、これらの中の農地は、貧農のもとへ分配されるかわりに(フィリピン貿易工業省長官ホセ・コンセプションが經營にかかわっている)個人經營企業の注目も浴びています。それは、とりわけ日本のODAを通して、フィリピン援助計画(PAP)から資金援助を得ようとしているCALABAR(カビテーラグナーバタンガスリーサール)開発計画の一環なので

す。日本のODAから利益を得ようとしているのは誰なのか、もうお分かりでしょう。

こうした理由により、私たちは、フィリピン援助計画(PAP)に含まれる日本のODAに対する抗議しつづけます。フィリピン大衆の犠牲の上に大企業を援助するだけではなく、日本

のODAは、地域の平和維持に役立つと主張しているにもかかわらず、一九九一年以降の基地存続に新たな根拠を与えることになるでしょう。

アジア太平洋地域における軍事演習に反対するあなたがたのキャンペーンを、私たちは全力で支援します。同じく私たちは、日米安保条約とともに参加します。

両国民衆の自由と幸福、両国の主権、両地域の平和と安全のために、ともに共同のたたかいを進めています。

### KMU

#### 友人の皆さま。

フィリピンのKMUより熱い連帯のあいさつを送ります。あなたがたが率先してなさるうとさしく時宜をえたもので必要なことがあります。とりわけ現在、米帝・日帝などの帝国主義勢力が、変革を求める人民のたたかいに対して攻勢を強化している今こそ、そうであります。

フィリピンにおいては、日本は米帝に次いで二番目の位置をもつてフィリピン人民から生活必需品をとりあげ、経済的に、政治的に、軍事的に、文化的に支配しつづけています。実際、第三世界の人民と帝国主義下の人民とは、程度の差はあれ、現在の不平等な世界の中で同様の問題に苦しんでいます。そうであるが故に、帝国主義反対のたたかいに全ての平和を愛好する進歩的な人々は世界中で立ち上がりねばなりません。闘いの中で団結し、私たちは最後には帝國主義を打ち倒して、正義と平和、平等と豊かさとが支配する新しい社会をつくりだそうではありませんか。

連帯をこめて

KMU議長

クリスピン・B・ベルトラン

### C L A S P

#### 独立フィリピンのための中部ルソン同盟

日本の友人の皆さん。

フィリピンから「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動90」に対する連帯のメッセージを送ります。私たちはこの運動はフィリピン人民にとって極めて重要なものだと感じています。

日本侵略軍がフィリピンの人々に大変な苦しみを与えた第二次世界大戦が終わってからほぼ半世紀近くが過ぎましたが、私たちは今まで、新たななかたちでの日本の侵略にさらされていました。そして、今度の侵略はアメリカ合衆国の大企業・政府との協力のもとに行われているのです。

第一次世界大戦中に日本軍が降伏した所で、今は日本の大企業が資源を開拓し、森林を伐採し、環境を汚染しています。これらは、みな「進歩と発展」の名のもとに行われているのですが、実際には巨大な利益をあげるためのもの

BAYAN (新民族主義者同盟)

政治関係委員会 委員長

ロレッタ・アン・P・ロザレス

です。輸出加工区では日本の企業は、飢えに苦しむフィリピン人労働者を低賃金とひどい労働条件で搾取しています。また日本人の「買春ツアー」はフィリピンの女性たちを单なるセックスの対象として扱いながら、商品として日本に輸出してさえいるのです。日本政府はアキノ政権の默認のもとで、フィリピン人民の犠牲の上にODA（政府開発援助）を経済的利益を保障する投資として利用しています。

それゆえ私たち、あなたがた日本人民が、必要とあらば政府と大企業に圧力をかけてでも、この新たな私たちの国への侵略をストップさせるよう訴えます。

そのためには、あなたがたは巨大なコングロマリット（複合企業）や政府とたかわなくてはならないでしょう。しかし、私たちは団結した人民よりも強いものなどない、ということを確信しています。こうした点から「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動90」は、力強い、有効な人民の運動をつくりだしていくための、正しい、重要なステップです。

日本での困難な人民のオルグ活動と、フィリピンおよびその他のアジア人民との連帯を通して、私たちはアメリカの侵略と同様に、日本の侵略に対してもたかう人民の強固な統一戦線を建設していくことができるし、すべてのアジア参加し、活発な討論がなされた。

五月一四日から二六日のあいだ、韓国大統領・盧泰愚が訪日した。日韓両政府は、「二一世紀に向けた未来志向的な協力関係」を打ち立てるこことを大々的に宣伝した。一連の天皇会談・日韓首脳会談が行われた翌日の五月二七日、「盧泰愚来日を問うーアジア人民の国際共同闘争をー五・二七討論会」が開かれた。この討論会には、関西で盧泰愚来日阻止闘争を担つてきた労働者・学生など約二〇名が参加し、活発な討論がなされた。

## 問われる国際連帯の理論と実践

5・27

# 盧泰愚のぐり活動家討論集会

ある。かつて全斗煥来日反対、韓国民主化闘争との連帯を掲げてたたかった労働運動の立ち上がりがおさそられたという事態が今回は生まれた。社会党の土井委員長が盧泰愚との会談を行ったように、これまで社会党の建前であった韓国軍事政権反対・民主化闘争連帯・日朝友好を彼らは完全に捨て去り、盧泰愚政権の承認へと転落した。さらに日共も天皇の政治利用反対に言及しただけで、盧泰愚政権を選挙で成立した「合法的」政権と見なして承認し、とくに盧泰愚来日に反対することはなかった。

の盧泰愚来日をめぐる状況のなかでは、これまでと違つて反対闘争の規模は明らかに後退を示した。その原因として、次のことがあげられる。

日韓連帯闘争は、わが国での国際連帯運動としては、もっとも経験と蓄積を有してきた運動である。今回

KADENA（民主主義と民族主義を求める青年たち）より心から友愛のあいさつをおくります！

今日は、世界の若者たちは、ますます複雑になっていく状況のなかにあります。そして、膨大な人々が、社会の変革を求めて立ち上がりたたかっていることが、この状況の特徴なのです。第三世界の人民と若者たちは、帝国主義の抑圧と搾取によって、生きるか死ぬかのたたかいを強いられており、一方、その同じ抑圧的なシステムによって、資本主義諸国では、人民と若者たちは窒息させられているのです。どのよ

うな事態のなかにあっても、若者たちは、社会の変革を求める人民のたたかいにおいて、欠くことのできない勢力であるということは、はつゝん人民は必ずあなたがたと連帯していくことを約束します。

CLASP議長  
アンガル・ベイキング

アメリカ帝国主義とその同盟者に率いられた反動勢力は、現在のところ、私たちよりはるかに強力です。しかし、世界の被抑圧人民と若者のあいだでの、相互の尊重と協力の上に打ち立てられた強固な團結をもつてすれば、私たちの危機の兆候です。

第三世界諸国への強まる抑圧と搾取、大ブルジョアジーへの富・権力の集中による死活をかけた介入・侵略行動。これらは、こぎりしています。

世界資本主義システムの危機は、ますます強まっていきます。第三世界諸国への強まる抑圧と搾取、大ブルジョアジーへの富・権力の集中による死活をかけた介入・侵略行動。これらは、こぎりしています。

KADENA  
民主主義と民族主義を求める青年たち  
(全国執行委員会)

Mabuhay Kayo！あなたがたの活動の成功を願って。  
KADENA  
民主主義と民族主義を求める青年たち  
(全国執行委員会)

立場もまた、韓国資本主義の成長を経済的根柢とした反独裁民主化闘争や南北統一闘争内部の階級的な分解、韓国革命運動の路線論争の噴出という状況や、さらに韓国財閥の資本輸出・多国籍企業化の進展という事態の中で、もはや事態にたちおくれた古臭い基調となつたと言える。それゆえに、こうした旧態依然とした立場では日韓関係と韓国社会の変化の前に、現実の政治活動を組織することができないという限界が明らかになつてきているのである。

日韓連帯・日朝連帯闘争をめぐつて、わが国階級闘争はその質と量の両面で圧倒的に立ち遅れている。これを突破し、新たな日韓連帯運動・国際連帯運動を切り開くために、五・二七討論会は組織された。

## (2)

討論会では、まず最初に主催者である五・二七討論会実行委から、盧泰愚来日にこめられた日韓支配階級のたくらみが日程にそつて報告された。基調では、われわれをとりまく情勢の特徴として、國際帝国主義が社会主義諸国への介入と第三世界革命運動への反革命攻勢を強めていることが述べられ、アジアにおける反帝闘争、統一戦線を創出していくことが呼びかけられた。さらに新たな日韓連帯闘争の発展として、次の方が提起された。「日韓関係の新たな段階への踏み込みが、東アジア・太平洋全域における人民の反帝闘争・革命闘争を鎮圧・抑止する共同の反革命への道である以上、日韓連帯闘争は、それと対決するものとして自らを発展させることを要請されている。(中略)われわれはあえてフィリピン革命闘争との連帯をその具体的な発展方向のひとつとして提起する。それは現在、東アジア・太平洋地域において日韓関係を中心として再編・強化されようとしている反革命同盟は、近い将来(中略)フィリピンに対して発動されるといふ、われわれの確信に近い予測に基づくものだ」

「日本の労働者・人民がさまざまなる同闘争の組織化を通して排外主義と対決し、日韓・日朝人民の団結を勝ち取っていくとともに、東アジア・太平洋地域における国際的な反帝統

う状況や、さらに韓国財閥の資本輸出・多国籍企業化の進展という事態の中でも、もはや事態にたちおくれた古臭い基調となつたと言える。それゆえに、こうした旧態依然とした立場では日韓関係と韓国社会の変化の前に、現実の政治活動を組織することができないという限界が明らかになつてきているのである。

日韓連帯・日朝連帯闘争をめぐつて、わが国階級闘争はその質と量の両面で圧倒的に立ち遅れている。これを突破し、新たな日韓連帯運動・国際連帯運動を切り開くために、五・二七討論会は組織された。

## (3)

これらの基調提起をうけて討論会では、おおよそ次のようない討議が交された。

まず第一には、天皇制攻撃の一環として、アキヒトの「謝罪」発言があり、秋の大嘗祭を頂点として天皇制の浸透がはかられるなかで、盧泰愚来日を通してかけられた天皇制攻撃とのたたかいが弱かつたのではないか。つづいて基調が提起された。基

調では、われわれをとりまく情勢の特徴として、國際帝国主義が社会主義諸国への介入と第三世界革命運動への反革命攻勢を強めていることが述べられ、アジアにおける反帝闘争、統一戦線を創出していくことが呼びかけられた。さらに新たな日韓連帯闘争の発展として、次の方が提起された。「日韓関係の新たな段階への道である以上、日韓連帯闘争は、それと対決するものとして自らを発展させることを要請されている。(中略)われわれはあえてフィリピン革命闘争との連帯をその具体的な発展方向のひとつとして提起する。それは現在、東アジア・太平洋地域において日韓関係を中心として再編・強化されようとしている反革命同盟は、近い将来(中略)フィリピンに対して発動されるといふ、われわれの確信に近い予測に基づくものだ」

第四には、どのような反対闘争や日韓連帯闘争に労働者・学生を組織するのかが問わたという意見である。すなわち日韓連帯闘争のあたらしい基軸、方向性を生みださなければ、たたかえない時代に入ったのではないかという基調提起の内容を受けた意見である。

まず「フィリピン革命との連帶といふことでは、日米韓軍事同盟がフィリピン革命の庄毅に向かっているこ

一戦線の一翼として自らの闘争を發展させることが求められる時代が到来しようとしている」「かつて『唯べトナム反戦闘争が起ころなかつた国』と言われた韓国においても現在の闘争の中から必ずこうした課題に直面し、国際的な闘争に踏み出していく意識的部が登場するだるう」とつまり日韓反革命同盟と対決してくる意識的部が登場するだるうのである。

## (4)

とは直感できるが、具体的な動きはどうなものか」という点について質疑応答がなされた。ついで日韓連帯は蓄積も経験もあり、在日問題などからリアルに闘争方針を打ち出せるが、フィリピン革命連帯運動はまだ風づいており、また米ソ核戦争の危険性を背景にした反戦平和・反核の大衆的自然発生性の存在を根拠にした、日米韓軍事同盟反対のたたかいが有効性をもつていたが、盧泰愚来日では、状況は異なってきているという意見がが出された。さら

に総評労働運動が担つた反戦平和・国際連帯運動が崩壊し、総評が解散して「連合」が労働運動を制圧するという状況下では、日韓連帯闘争だけでなく、日本労働者人民のたたかいでなく、日本労働者人民のたたかいの総体を再建することが問われていた。そして新しく日本労働者が人民を立ち上がらせるために、日帝のアジア侵略と日韓反革命同盟によるアジア・第三世界人民に対する支配という問題を焦点にし、アジア・第三世界人民のたたかいつの大衆的な国際連帯運動を創出すべきだと

いふこと。そして卢泰愚訪日反対のたたかいや、國際連帯のたたかいつはどうなつてているのか、また韓国革命の路線とその論争とはどういったものか、などの質問がおこなわれた。またこうした韓国民の革命をめぐるたたかい、国际連帶闘争の最も先進的な部分に連帯する必要があるという意見もだされた。

第三には、盧泰愚来日とともに「天皇謝罪」や「在日三世」などの問題

が政治問題化するなかで、大衆的にも盧泰愚来日に對する政治的関心が高かつたという反対闘争を実際にたたかつた活動家からの実感が出された。

また、日韓連帯運動が反天皇制運動やフィリピン連帯運動、さらに外事問題、登法や家族制度の問題、原子力協定での反原発問題など、盧泰愚来日をめぐって様々な課題とながつてくことを突きだしたが、それゆえ新しく運動の広がりが見出せるのではなかとの意見も出された。



日米反革命同盟の強化にむけた盧・天皇会談(5月24日)

アジア労働者交流センター・関西（略称・N.A.W）が、七月二七日をもって結成一周年を迎えるとしている。また関西においては、いくつかの階級的労働組合によって呼びかけられた「ふたたびアジア人民をじゅうりんし、侵略し、支配しないための日本人民の運動」。

この一年は、かつて侵略戦争によつて一〇〇〇万人におよぶアジア人民を虐殺した日本帝国主義が、ふたたびアジア労働者人民の「第一の敵」として登場しようとする動きが、急速に進展した一年であった。

昨年以来進む、東欧の激変や「米ソ協調」という新しい国際環境が生み出されるなかで、世界各地で新しい国際関係が模索されてきた。帝国主義ブルジョアジーは、米帝をして「四〇年以上もの間、アメリカとの同盟諸国は共産主義を封じ込めてきたし、民主主義が引き続き存在するのを保証してきた」が、その結果、「共産主義が崩壊」（ブッシュ米大統領・一般教書演説）したと、勝利宣言を発した。だが、帝国主義ブル

ジョアジーは、帝国主義に対する全世界のプロレタリアートのたたかいで崩壊したとは決して思っていない。米帝の九一年度国防報告は、「米国の安全保障戦略の第一の原則」として「力によつて平和と自由を維持」をうたい、より強力な帝国主義による国際新秩序の確立をうらだした。

## 再度の侵略反革命進める日帝の野望

この一年は、かつて侵略戦争によつて一〇〇〇万人におよぶアジア人民を虐殺した日本帝国主義が、ふたたびアジア労働者人民の「第一の敵」として登場しようとする動きが、急

速に進展した一年であった。

## —アジア労働者交流センター・関西 結成一周年にあたつて—

# 全国に労働者組合を

90」などの、大衆的な労働者国際主義政治運動の動きも開始されるものとして展開されている。

日帝は、現情勢を絶好の期として、

「アジアにおける盟主」としてアジ

アを制覇せんとする動きを、いまや

全面的に開始している。

日帝は、海部は、「秩序構築の動き

を歐州からアジアに運動させる」と

宣言し、今年四月の南西アジア歴訪

以降、カンボジア問題での東京会議

の開催、カシミール問題やスリラン

カの内戦など政治的問題への介入の

動きを強めてきた。この背後には、

ODAなど大量の円借款をテコにし

た経済侵略の進行がある。すでに日

帝は多国間援助の第一出資国である

フィリピンをはじめ東南アジア経済

の命脈を握り、さらに、アジア全域

への本格的な新植民地主義支配に踏

み出していくために、南西アジア諸

国に対する露骨な政治的介入を始め

ようとしているのである。これらは

「アジア総合安保体制」構築などの

日帝の軍事的進出をバックとして、

ますます拡大していくだろう。昨年

のPACEX、今年のリムパックな

ど、激化するアジア・太平洋地域で

の米日を軸とした軍事演習や、日帝

による国際新秩序の確立をうらだし

た。

## 産業報国会の正体を暴露する「連合」

このような中で日帝は、極めて重

要な役割をもつて登場している。年初頭、米帝・ベーカー国務長官は、「戦後は終わった。アジアにおいても歐州と同様、新たな秩序が形成されつつある。…（その要は）日本との世界的な責任分担に基づく新たな太平洋協力関係」であると、主張した。

またこの一年は、総評政治闘争に代表された戦後反戦平和闘争が最終的に崩壊し、日本労働運動の主流となつた新「連合」指導部が、明確に帝國主義ブルジョアジーの同調者としての第一歩を踏み出した一年であつた。

この背景には、「生活保守意識」の背景には、「生活保守意識」

という帝國主義のらん熟した国民意識の、労働者人民内部への蔓延がある。とりわけ、八五年「円高不況」の世論調査（一九八七年九月）では、日本企業の経済活動は「帝國主義的」と答えたものが実に70%にも上つており、この数値は年を追つて増大

している。

「連合」顧問の宇佐美は、「アジアをはじめとする開発途上国で、貧富の差が拡大されたり、人権が侵害されたり、政治の腐敗があると、そこで解放闘争の名による戦争が誘発されます」（『連合』5）と、ベトナム、アフガニスタン、中南米を例にとって主張し、「自由な労働運動が育つよう」テコ入れを行い、「戦争の防止」を行うことを日本労働運

動の道を選んできた。戦闘的経済主義にかわって労資協調による企業の生き残りと基盤整備が労働運動の任務になり、また最も先鋭な現れとなり、日帝の経済的権益を防衛し拡大するために、上層労働者（大企業本工労働者）を軸に、積極的にアジア・第三世界への介入が準備されている。

今年度の「運動方針の骨格」につい

て」が明らかにするように、「連合」は国際自由労連への加盟によって単に「西側＝帝國主義諸国の一員」となることを選択したにどまらない。

第一に、「連合」は日帝の新植民

地主義支配と結びついて、国際労働

運動への介入と支配に積極的に着手

しようとしている。

アをはじめとする開発途上国で、貧

富の差が拡大されたり、人権が侵害

されたり、政治の腐敗があると、そ

こで解放闘争の名による戦争が誘発

されます」（『連合』5）と、ベト

ナム、アフガニスタン、中南米を例

にとって主張し、「自由な労働運動

が育つよう」テコ入れを行い、「戦

争の防止」を行うことを日本労働運

動の任務とすることを提案している。

第三世界の貧困、人権侵害、腐敗政治は、帝国主義の新植民地主義支配こそがもたらしている。その結果わざおこる反帝民族解放闘争を壊滅することは、まさに帝国主義にとってこそ必要である。「連合」は、この先兵として日本労働運動を登場させようとしているのである。

第一に、「連合」は、帝国主義の超過利潤の一部を使って、第三世界に御用労働運動を組織することを、すでに直接の課題に上げている。

「連合」は、「第二の軍事費」と呼ばれ、第三世界への帝国主義の政

治・経済・軍事支配に深く関わっているODAの積極的拡充を立場として、

「政府のODA計画への参画」(藁科電機労連委員長)、「ODA資金の十分な供与など積極的な支援を行うこと」(制度・政策要求と提言)

を日帝に要求している。昨年五月、政府のODA委託事業費一億四〇〇〇万円と加盟組織の基金一二億円をもって、「連合」は「国際労働財團」を設立し、その後で、「途上国」の組合指導者の招待、将来の運動をになう「人作り」への参与と資金援助、労働団体の教育・共済活動の

とが、先進的労働者の根幹的任務にさえられなければならない時代にわれわれは直面している。

帝国主義ブルジョアジーが唱和する「資本主義は最高の制度である」という宣伝にもかかわらず、帝国主義ブルジョアジーにたいする全世界のたたかいは決して絶えることなく、逆に帝国主義のあくことのない新植民地主義支配に対して激化の一途をたどっている。とりわけ、國際帝国主義へと成長した日帝本国の労働者人民に、いま、日帝の新植民地主義支配下のアジア・第三世界労働者人民からの告発と援助・連帯の要請がお寄せできている。フィリピンか

研修」などの事業計画化が進められている。

日帝と「連合」は、かつて米帝が新植民地主義支配を防衛するために、膨大な超過利潤の一部を注ぎ込んで反共御用労働運動を育て、戦闘的な労働運動や人民のたたかいの分裂・破壊を行った道に続こうとしているのである。

第三に、新「連合」は、アジアを制覇せんとする日帝の野望にそつて、彼らの国際活動の重点をアジア・太平洋地域に向けている。

「連合」は、国際自由労連のアジア・太平洋地域機構(APRO)の事務局長はじめとした指導的ポストを握り、米日帝のうちだしている

「アジア・太平洋経済協力体制」というアジア支配戦略に、労働運動の分野から積極的に参加していくことをしているのである。

このような「連合」の動きは、激化するアジアの労働運動、反帝民族解放・社会主義革命と正面から対立していくものとなるだろう。「連合」指導部の産業報国会としての動きはすでにアジアにおいて開始されようとしているのである。

日本帝国主義がアジアの盟主として登場しようとして、日本労働運動がこの隨伴者として、アジアの労働者人民の打ち倒すべき敵として立ち現れるようとする時代が始まろうとしている。このアジア人民への蹂躪と支配の道を断固として拒否し、階級的労働運動の再建を切り開いていくことが、先進的労働者の根幹的任務にさえられなければならない時代にわれわれは直面している。

帝国主義ブルジョアジーが唱和する「資本主義は最高の制度である」という宣伝にもかかわらず、帝国主義ブルジョアジーにたいする全世界のたたかいは決して絶えることなく、逆に帝国主義のあくことのない新植民地主義支配に対して激化の一途をたどっている。とりわけ、國際帝国

的結合は途絶えて久しい。このよう

な中で、分断され苦闘するアジア労

働者人民のたたかいに応え、労働者

との国際連帯を発展させるためのさ

の階級的な労働運動や反帝民族解放

課題を明白のことあさってのことにして、「連合」指導部によるアジア

労働者人民の犠牲的連帯を組織する

として、「連合」指導部によるアジア

労働運動に対する破壊・鎮圧者としての登場に道を譲るのか。いまや「連合」内外を貫いて、すべての労働者人民にどちらの道を選択するのかが問わ

れている。このはつきりした選択抜きに、帝国主義的排外主義を打ち破っ

ていくことはできない。

日帝の国際帝国主義としての成長

は、アジア労働者人民をしばらくとつて安価に提供される「モノ」(衣料・

家具・日用品・食物、そして労働力まで)を日本にあふれさせ、日本労

働者人民の生活を満たしている。そ

の裏側には、帝国主義のために想像

を絶する貧困と弾圧の下におかれ

てアジア労働者が存在する。反帝民族

指導部の産業報国会としての動きはすでにアジアにおいて開始されようとしているのである。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れている。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

日本の労働者との連帯を発展させるための活動の組織化・関西規模のネットワークの準備、(4)アジアの労働者

との国際連帯を発展させるためのさ

の階級的な労働運動や反帝民族解放

課題を明確のことあさってのことにして、「連合」指導部によるアジア

労働者人民の犠牲的連帯を組織する

として、「連合」指導部によるアジア

労働運動に対する破壊・鎮圧者としての登場に道を譲るのか。いまや「連合」内外を貫いて、すべての労働者人民にどちらの道を選択するのかが問わ

れている。このはつきりした選択抜きに、帝国主義的排外主義を打ち破っ

ていくことはできない。

日帝の国際帝国主義としての成長

は、アジア労働者人民をしばらくとつて安価に提供される「モノ」(衣料・

家具・日用品・食物、そして労働力まで)を日本にあふれさせ、日本労

働者人民の生活を満たしている。そ

の裏側には、帝国主義のために想像

を絶する貧困と弾圧の下におかれ

てアジア労働者が存在する。反帝民族

指導部の産業報国会としての動きはすでにアジアにおいて開始されようとしているのである。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて

いる。

その時、日帝本国の「繁榮」を破壊するものとしてとらえ、アジア反帝民族解放闘争を排撃しようとする侵略反革命戦争の要求が、日本労働者人民内部に発生するのである。「連

合」指導部のこの間の動きはこれを先取りしたものに他ならない。帝国

主義が現在ひきおこしている「国際化」に比べ、階級的な労働者国際連帶のたたかいは決定的に立ち遅れて



NAW主催の反PACEX集会(89年10月)

典  
古  
学

## ⑩ カール・マルクス

レーニン著『カール・マルクス』は、一九一四年の七月から一月にかけて、百科辞典で有名なグラナト社の依頼を受けて執筆されたものである。

### ●百科辞典の一項目

『カール・マルクス』の構成は、「マルクスの学説」、「哲学的唯物論」。

見してマルクス主義の全体像を明らかにしようという構成である。それは『カール・マルクス』が百科辞典の一項目として書かれたという性格によるが、むしろプロレタリアートを大衆的に教育する機会としてこれを最大限利用しようとしたレーニンの意向の反映といらざるべきであろう。

その内容はマルクス主義の要点と核心をまとめたものである。レーニンは、プロレタリア大衆にマルクス主義への門戸を開き、その理解をさらに深めさせようとしたのである。

同時に『カール・マルクス』は実践の書である。これが執筆されたときは、第一次帝国主義戦争が始まり、第二インターナショナル諸党が排外主義に屈伏し、帝国主義ブルジョアジーと同盟して労働者を帝国主義戦争へ動員するという事態が世界的にあらわれた時代である。この「社会主義を掲げた排外主義・帝国主義」との理論的・実践的・組織的分岐が求められていた時代である。だから同じ一九一四年、レーニンは社会排外主義と帝国主義戦争の経済的基礎を明らかにし、かつ帝国主義が社会主義革命の前夜であることを明らかにするために『帝国主義論』を執筆したのである。



帝国主義からの解放を呼びかけるレーニンのポスター▶

# 社会主義復権の有力な武器

## マルクスの生涯と思想を短文で紹介

ら次のように述べている。「労働の社会化は、いく干の形態でますます急速に前進しており、マルクス死後の半世紀のあいだに、大規模生産の成長、資本家のカルテル、シンジケートおよびトラストの成長にも、また金融資本の規模と威力の非常な増大にも、とくにまさまさとあらわれてゐるが、これこそ、社会主義が必ず

来るということの主要な物質的な基礎である。この転化の知的・精神的な原動力であり、その物質的な執行者であるのは、資本主義そのものによつて教育されるプロレタリアートである」。

まさに『カール・マルクス』は、当時の時代的背景の中での実践の著であった。それは、最後の章が「プロレタリアートの階級闘争の戦術」であることも示されている。ちなみに「序文」によれば、この「戦術」の章は出版に際し、「検閲を考慮して」（序文）、辞典の編集部によつて削除されている。

マルクス主義は革命的実践の指針であり、マルクス主義の唯物弁証法・唯物史観・資本主義批判・社会主義論は、革命的実践へとつき進むことによってのみ社会変革の武器となり、また実践によってその正しさが検証されるのである。

「戦術」の章の中でレーニンは次のように述べている。

「マルクスは、プロレタリアートの戦術の基本的任務を、彼の唯物弁証法的世界觀のすべての前提に厳密に一致して規定していた」「ある社会の、例外なくすべての階級の相互関係の総体を客観的に考慮すること、したがつて、この社会の客観的なな発展段階をも、この社会と他の諸社会との相互関係をも考慮することだけが、先進的な階級の正しい戦術の土台となりうる」「このばかり、すべての階級ごすべての国が、…静止の状態においてではなく運動において考察される。この運動そのものは、過去の観点からだけではなく、また未来の観点からも考察され、…弁証法的に考察される」

「プロレタリアートの戦術は…方では、先進的な階級の自覚と力と闘争能力を發展させるために、政治的停滞の時期、…平和的發展の時期

を利用するとともに、他方では、その階級の運動の終極目標の方向に向かって、二〇〇年を一つに圧縮した偉大な日々がきたとき偉大な任務を実践的に解決できる能力をこの階級のうちにつくりだす方向に向かって、この利用の活動全体を行わなければならぬ」。

### ●力強い生命力不変

現代の資本主義においては、生産の社会化は極度に進み、資本主義的成长、資本家のカルテル、シンジケートおよびトラストの成長にも、また帝国主義は社会主義を準備するといふべきを強めている。

『カール・マルクス』は、このよな時期において、われわれは何をすべきかを示してくれている。共産主義者は、社会排外主義・労働貴族と対決し、「『きたるべき戦闘のために』プロレタリアートの軍勢を訓練する…経済闘争と労働組合運動」を組織し、「先進的な階級の自覚と力を闘争能力を発展させるために」全力をあげねばならない。同時に、共産主義者は、「労働者階級の直接當面する目的と利益のためにたたかうが、しかし、現在の運動のなかで同時に運動の未来を代表する」（マルクス『共産党宣言』）のであり、社会主義に向けて「新しい革命を準備する新しい時期に活動する能力」を獲得するために奮闘せねばならない。「ブルジョア的合法性が支配している時期に合法的闘争手段を利用する」とともに、時至ればいつでも「非法闘争に移る」ことのできる準備をそのような時代からなさねばならないのである（以上引用は『カール・マルクス』）。

ブルジョアジーによつて「社会主義の敗北」が叫ばれ、「マルクス主義の終焉が」声高に主張される現在、マルクス主義の原点にたちかえり、社会主義への確信を深めるうえで、この『カール・マルクス』はかつこの教材である。われわれはこの著を通じて、マルクス主義と社会主義のみずみずしく、力強い生命力にふれることができるであろう。